



★★ギリシャ・エーゲ海の旅 特集★★ (2019.9.2～9.9)

※50音順 敬称略

◆『ギリシャ・エーゲ海的美』——わが NPO 初めての海外旅行

旅行講師 谷岡 清

NPO 法人美術教育支援協会主催の国内美術館めぐりのバスツアーは、これまで何回も行われて来ましたが、昨年の秋、初めての海外ツアー『ギリシャ・エーゲ海的美』(9月2日～9日)が実現しました。

これは「土曜フォーラム」など、恒例の美術講演の参加者の中から「海外の美術館や遺跡を谷岡講師と一緒にめぐりたい」との声があがり、多くの皆さんのご賛同を得て、催行の運びとなったものです。

行程は、アテネから始まり、ミコノス、デロス、サントリーニ、クレタとエーゲ海の島々をめぐる旅で、ギリシャ美術の粋と紺碧のエーゲ海的美を堪能することが出来ました。総勢 20 名、日々快晴、現地ガイドの国武さんと、旅行社イツ・ワールド横井さんの行き届いた手配によって、和気藹々、充実した楽しい旅となりました。

参加の皆さんにも好評で、今年もどこか海外の旅に行きたいとの声も多く、東西文明の十字路口トルコやゴッホなど巨匠の国オランダ等の候補地も上がりましたが、すべては世界的なコロナの猛威によって見送りとなりました。来年はぜひ実現したいと考えています。

次回以降の旅の参考資料として、ご参加の皆さまにご感想をお聞きしたところ、お気持ちのこもった予想以上の長文のご感想文をご執筆いただきましたので、特集号として末永く保存させていただくことにいたしました。どの文章からも、旅を楽しまれたご様子が伝わり、一同心より感謝申し上げます。

ご協力ありがとうございました。

◆ ギリシャ・エーゲ海的美術ツアー思い出

橘高 弘武

「朝、ホテルの窓を開ける。どこまでも続く青い空と青い海。眼下に広がる家並みが白い。今日もまたエーゲ海に浮かぶ島の1つを谷岡先生に解説していただきながら体験できるぞ。古代ギリシャの神秘と偉大さに感動しながら。」と、毎日が素敵だった6泊8日の旅でした。

この素晴らしいツアーが実現出来たのは、10 年前から続いている「土曜フォーラム」の終了後に毎回やっている懇親会(2018 年)でのことでした。谷岡先生が豪華客船「飛鳥Ⅱ」の美術講座 Special Guest として世界一周ツアーに招かれた時に乗っていた大富豪のNさんや同じ Special Guest で落語真打の古今亭志ん彌師匠などが「海外寄港地でも個人的に谷岡先生のお話が聞けた。現物を見ながらのお話だったので感激した。」との紹介がありました。「それは羨ましい、私たちもぜひ聞きたい。2,000 万円もするクルージングはむりだけど。」との声が盛り上がり、ついに事務局長が企画してくれたものです。

大満足の企画でした。旅行パンフによくあるエーゲ海ツアーとは違い、谷岡先生が何 10 回も調査された中から厳選された場所です。ツアーではあまり行かない「女神がゼウスの子を産む場所を選んだデロス島」などなど。各島には現地フェリーで青いエーゲ海を渡り、各島の5☆ホテルに宿泊。遺跡・美術品を見ての奥深い解説(もちろん谷岡先生得意のウィット付き)。美味しい食事とワインと皆様との会話。とても中身の濃い、楽しい8日間でした。

◆ 真っ青な空・エーゲ海の旅

荒牧早苗・佳子

大昔から続いている鮮やかなエーゲ海 真っ青な青空 遺跡の数々を見る旅に昨年 9 月 谷岡先生と 19 名で ”ギリシャ*エーゲ海的美”に出発しました。先生がお作りになったガイドブックを持って行動開始！

神々の島 デロス島。現在は管理人だけが住む無人島です。石造りの町が綺麗に残っています。古代人がここを歩いて、数々の神殿を参拝したり市場や商店を行き来したり 劇場では楽しい時間を過ごしたことを想像してみます、さぞかし賑やかだった事でしょう。石の文化は朽ちること無く後世に伝わる事を感じました。谷岡清先生はじめ添乗員の横井様、現地ガイドの国武様、参加された皆様のおかげで 楽しい旅が出来ました。全員がまとまった良いメンバーでした。ありがとうございました。

飯野 光男

コロナ禍の自粛ムードで街中に人も車も少なく青空を見ているとエーゲ海の美景を思い出す。ギリシャについては書籍や絵画で多少知る程度であったが、美術フォーラムで谷岡先生の講義から魅力を感じ、アクロポリスが見えて現実になる。公認ガイドとの並はずれた詳しい案内に驚くばかり、主要遺跡、博物館を観て聞いて触れてギリシャ美術の神髄を堪能。毎日感激の連続だったが、人間の知恵は太古の昔から変わっていないような気もした。恥ずかしながら自分はいかに不勉強であったことも思い知る。最終日にはボーっとしていたのか、一瞬のスキに盗難に遭い、皆さんに心配や迷惑をかけてしまった。言葉もわからず、お金もパスポートも無いまるでダルマさん状態。現地ガイドさんや仲間の友情に助けられ次の日にはカタル・ドーハ経由で成田に着いた。未熟さをさらけ出した旅だった。

◆ 「ギリシャ・エーゲ海の旅」に参加して

大島 陽一

この旅で私の生涯の夢が実現しました。私は高校3年の時、受験参考書に載っていた「クレタの壺」の写真に魅せられてしまいました。今から4千年前、エーゲ海で栄えたミノア文明を代表するこの壺には、のびのびと8本の脚を上げたタコの姿が描かれており、ギリシャ古典文明に先立つ海洋文化の息吹が満ちあふれていました。この壺の現物をぜひこの目で見たい、という念願が高まりましたが、その機会に恵まれなまま時は流れて行きました。

仕事の関係でヨーロッパ、中近東へは20か国以上訪れたのですが、ギリシャは30代初めのアテネ一回だけでした。80代に入って、海外旅行はもう無理かと思われたころ、奇跡のような機会がめぐってきました。私ども夫婦が親しくさせて頂いている谷岡清先生引率の「ギリシャ・エーゲ海の旅」が企画されたのです。9月の出発に先立って先生のスライド付きの熱のこもった講義が4回行われ、クレタへの思いはいやが上にも高まって行きました。

約20人のお仲間と一緒に巡った島々の旅は、真っ青なエーゲ海に真っ白な建物が映え、きわめて充実したものでした。おいしいギリシャ料理と酒を楽しみながら続いたこの旅の、私にとってのハイライトは、もちろん、クレタ島の美術館でのあの壺との対面だったのです。この至福の時を与えてくださった谷岡先生への感謝は尽きることはありません。

◆ ギリシャ、エーゲ海の旅

大野 公代

碧い海、真っ白な家々、絵葉書の中に飛び込んだような色鮮やかなギリシャ。最初に訪れたアクロポリスの丘の雄大な遺跡は、スケールの大きさと歴史に感動し、サントリーニ島の街歩きはおとぎの国に紛れ込んだようにワクワクとしたものでした。本やスライドの世界でしかなかった遺跡や美術品を目前にしているという実感を味わいながら実に心躍る毎日でした。なによりも心に残ったのは、一緒に旅した方々との心温まる交流でした。ありきたりのツアーと違い、チーム谷岡の一員としてご一緒させて頂いたことはこの旅行の思い出と共に素敵な財産になっています。

出発前に戴いた貴重な資料の数々を時々眺めては楽しかった時間を思い出しています。

◆ 「ギリシャ・エーゲ海の旅を振り返り」

北林 信子

あれは夢？ こんな世の中になって振り返るとやはりそうしか思えません。たった八ヶ月前、谷岡先生とギリシアの美を楽しみつくす旅に参加できたことは・・・先ず出発の朝、先生執筆の写真満載の資料に感激、このファイルを片時も離さず、移動中は先生の解説を聞きながら、見学場所では見落とししないよう夢中でついていきました。デロス島でエーゲ海の風の中、遺跡を巡りながら古代を偲んだ時間も忘れがたく、まさに至れり尽くせりの8日間でした。極めつけは、谷岡先生による撮影編集ビデオです。魅力的な世界が広がる映像を何度も見返しつつ、改めて平和で夢のような旅だったと感動を新たにしております。

◆ 「永遠」と「現代」

小谷野 温子

谷岡清先生は自由学園リビングアカデミー(45歳以上の学校)の人気講座「居ながら世界の美術館巡り」の講師を5年間担当しておられます。先生が活躍された日本経済新聞社同期入社の市岡揚一郎(元論説主幹)自由学園前理事長の依頼を快諾なされたのです。そのご縁で私は「ギリシャ・エーゲ海の旅」に、夢かとばかりに参加いたしました。先生オリジナルの資料を手に、いざ本物の中に身を置いた時、その迫力は、魂を貫くものでした。果てしない過去が躍動している永遠性。一方アテネのスリ集団との遭遇やコロナ報道で認識したクルーズ船等の現代性。「永遠」と「現代」が交わる天下の絶景ギリシャは生涯忘れ難く、谷岡先生と横井様への感謝は尽きません。

高橋 幸子

9月2日午後9時、私たちを乗せてエール・フランス機は飛び立った。眼下にはパリの夜景が広がっている。くねくねと曲がったセーヌ川の向こうには、ライトアップされたエッフェル塔。上空から見る凱旋門は、ずんぐりした姿である。地上を行き交う沢山の車のヘッドライト、道路や橋に並ぶ街路灯は、温かい黄色に輝いている。片隅の暗い一角はシテ島だろうか。春の火災から4か月余り、修復中のノートルダム大聖堂は確認できない。音のないきらびやかな世界を後に、飛行機は大きく旋回し、あたりは夜の闇にとけこんでいった。あと3時間でアテネに到着だ。

◆ 歴史の深さと彫刻技術の高さに感動

西野 宗武

数年前、クルーズ船飛鳥Ⅱに乗船した時に、船内で谷岡先生の講演を聴いて以来、その楽しさから、すっかり美術ファンとなりました。もともと歴史の好きな私は、帰国後もNPOの美術講演に毎回参加し、多くのファンの方たちと親交を深めるうちに、先生と一緒に現地へ、のちに賛同、今回の旅に喜んで参加しました。

公私ともによく海外へ出ますが、今回の旅は格別、アテネから始まり、エーゲ海の美しい島々をめぐり、紀元前のギリシャの歴史の深さと彫刻等の技術の高さに驚嘆する毎日で、同行の皆さんの温かいお心と楽しい食事、それに待望のサントリーニ島のワインも手に入れ、最高の旅となりました。次のトルコへの旅が待ち遠しい日々です。

◆ 石ころ舗装の道

降幡 俊夫

コロナ禍の毎日、外出もままならず、テレビ、読書にも飽きて、デスクに向かうとパソコンと並んで畏友谷岡清君製作のスマートな卓上ギリシャ・カレンダーが目に入る。自然に旅行の思い出が甦る。風景はもとより旅で出来た新しい知人達の顔も彷彿とする。

遺跡巡りだけあり、今度の旅行は随分と石ころ舗装道を歩いたようだ。そのためか老体の私はよく足を滑らせ、転びかけたり、転んだりした。その都度両脇から新しい女性の知人の助け手が伸びてきて大事にならずに済んだ。改めて深く感謝申し上げたい。

その中で一度、アテネの神殿跡でグループから離れ、追いつこうと急いだところ、矢張り前につんのめりそうになった。するとすかさず横から綺麗なマニキュアをした白い手が伸びてきて「アーユウ オーライ？」と若々しい声が出た。思わずその手を掴み、お陰でここでも転ぶことなく済み、丁重にお礼を述べて仲間の後を追った。後でこの話をわけ知り友人にすると「それは多分ギリシャ的美人局だな、そのまま仲良く手をつないでいると、怖い兄ちゃんが現れひど目に遭った筈だ」と解説してくれた。私としては、今でもあの時の若い欧州女性の言動は善意からだと思じ、もう少し手をつないでいたかった気分なのだが。

最後にもう一つ、あの旅の記念のつもりで描いた20号と10号の油絵は、5月連休の絵画展に出品する予定であったが、会場閉鎖で、いまだ日の目をみていない。コロナの消える日を待つこと切である。

◆ デロス島

三浦 洋子

ミノス島からフェリーで30分、太陽神アポロンと月の神アルテミスの聖地。島全体が世界遺産、現在の住人は管理人のほか猫だけのようだ。広々としたコバルトブルーの空の下、強い風の中に立つ5頭のライオン像は雄々しく逞しい。博物館のオリジナルはなぜか淋しげだった。

2千年前の生活がうかがわれる住居跡を見学。残された低い石壁で区切られた店舗跡が続き、中には立派な柱と、床に色鮮やかなモザイク模様の残る家なども有り、廃墟美が際立っていた。盛時3万人近くが暮らしていたという街、その石畳を歩いていると、フッと誰かの視線を感じ振り返る。角を曲がれば当時の人たちと出会いそうな…時のほざまに迷い込んでしまったような不思議な感覚にとらわれた3時間の島巡りだった。

◆ 印象深い旅

イツ・ワールド 横井ナナ

今回、一番印象に残った見学先は、クレタ島のクノッス宮殿です。空いていたこと、爽やかな風に蝉時雨。いつもは、各国の観光客でごった返し、ガイドの声もよく聞こえず、迷子になりそうな場所です。今回は、地元ガイドさんが図説を用意し、通訳ガイドの国武さんの声もよく聞こえました。「当時、牛は大変な貴重品でした」と。ミノタウロス VS テセウス、宮殿内に残る牛の文様、牛に化けるゼウス、牛目のヘラ etc。谷岡先生が座った王座を眺め、迷宮宮殿の全体像がようやく把握でき、「牛」についても納得できました。皆様のご協力のもと、印象深い旅になりましたこと、深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

◆ギリシャ、エーゲ海 8 日間 90000 歩

理事 青木 修

2019年9月2日～9日、ギリシャ・エーゲ海の旅は東京からの添乗横井さんを入れて20名で催行、連日好天に恵まれる。5～6月、事前4回の美術フォーラムで谷岡理事長が「エーゲ海、クレタ文明、パルテノン、アクロポリス美術館、アテネ美術館」の魅力を大型スクリーンで詳細に講演されていた。また、旅の参加者には、谷岡さん手作りのA4・24頁カラーの解説・案内書を小型携帯用クリアファイル2冊にして配布されて、遺跡、美術館等でも大変参考になった。

現地女性ガイド国武さんの案内は、アテネからエーゲ海の島々、帰途の空港まで、懇切、丁寧にかつ造詣深い話には旅の興味がいやがうえにも高めてくれた。ガイドの話のついでに付け加えると、一行の内、ひとりが最終日直前、アテネのスターボックスでバッグ(旅券・財布入り)を置き引きされる災難に遭う。その折、現地警察との対応、翌日大使館へ旅券申請、一日遅れの航空便手配、ドーハでのトランジットで迷子にならぬよう病人扱いとして車椅子での搭乗手続き等諸々の手配をして下さり、ただ感謝するばかりです。イツ・ワールド横井さんの現地ガイド選択の良さ、事故後のケア等、全旅程で大変お世話になりました。

旅券の盗難、紛失は稀ではあるが、海外旅行ではときにあることです。今回の教訓は、大使館での旅券発行には戸籍謄本が必須なので、旅の保険の一つとして持参を考慮した方がいいのではと思った次第。今回の場合、戸籍謄本取得依頼連絡は日本の土曜・日曜に当たり、取得に手間がかかり、そのFAXを現地ホテルに送信してもらうのに相当な時間がかかったということがあります。10年程前まではギリシャは治安が良かったが、経済政策失敗・中東地域の難民流入等もあり悪くなったとの話は、旅の間何度も聞かされていたのですが残念なことです。しかし、皆さんが命に別条なく、無事健康で帰国出来てホッとしています。

旅の8日間計91939歩、1日平均11500歩、よく歩いた旅でもありました。



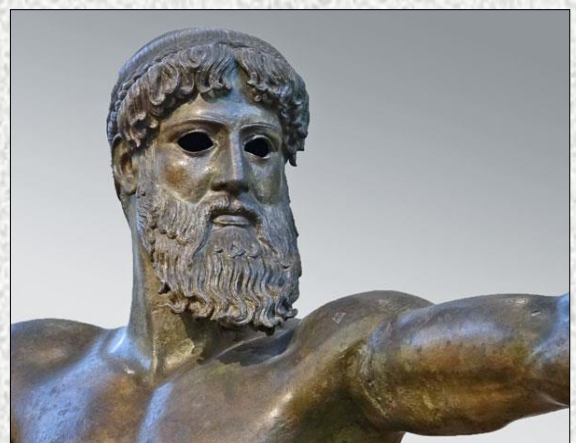
ミコノス島 教会



パルテノン神殿



クレタ島 地母神像



ゼウス像

写真撮影・谷岡 清